

平成30年地球温暖化影響調査レポート（概要）

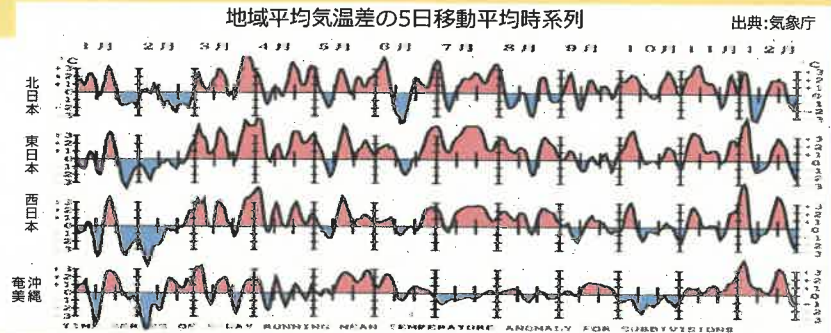
○「地球温暖化影響調査レポート」とは、都道府県の協力を得て、地球温暖化の影響と考えられる農業生産現場における高温障害等の影響、その適応策等について報告のあった内容を取りまとめたもの。（「農林水産省地球温暖化対策総合戦略」（平成19年6月策定）及び「農林水産省気候変動適応計画」（平成27年8月策定）に基づき、平成19年より取り組みを開始。

○平成30年地球温暖化影響調査レポートの調査対象期間は、平成30年1月～12月である。

平成30年の気象の概要

冬に全国的な低温であったが、春から夏にかけては、特に、東・西日本中心に記録的な高温となった。

「平成30年7月豪雨」の発生により記録的な大雨となった。また、台風第21号、第24号の接近・通過に伴い暴風、高潮となった。



発生報告の多い農畜産物における影響と適応策の実施状況

（報告単位：都道府県数）

水稲

【影響】出穂期以降の高温による影響として、白未熟粒の発生等の報告があった。（白未熟粒の発生 H28年:27件→H29年:23件→**H30年:31件**）

【適応策】白未熟粒の発生抑制等のための適期移植・移植時期の繰り下げ、施肥管理や水管理の徹底等の取組が多くのある県であった。

平成30年産の高温耐性品種の作付面積は全国で約12万6千haで前年産と比べて約3万2千ha増加。（高温耐性品種の占める割合は約9.1%）



白未熟粒（左）と正常粒（右）の断面

果樹

【影響】ぶどうでは着色不良・着色遅延、りんごでは着色不良・着色遅延、日焼け果、うんしゅうみかんでは浮皮の発生、着色不良・着色遅延の報告があった。

（ぶどうの着色不良・着色遅延の発生 H28年:15件→H29年:25件→**H30年:22件**）

【適応策】ぶどうでは着色しやすい品種の導入・着色向上技術の導入、りんごでは着色優良品種・系統の導入、うんしゅうみかんでは、植物成長調整剤等の散布、マルチの利用等の取組があった。



日焼けしたりんご果実

野菜

【影響】トマトで着果不良や不良果、いちごで花芽分化の遅れについて報告があった。（トマトの着果不良 H28年:18件→H29年:12件→**H30年:14件**）

【適応策】トマトでは、品質向上等を目的とした細霧冷房や遮光・遮熱資材の活用等の取組があった。また、いちごでは、花芽分化の促進を目的とした夜冷育苗等の取組があった。

花き

【影響】きくでは、開花期の前進・遅延、奇形花の発生等の報告があった。（開花期の前進・遅延 H28年:14件→H29年:17件→**H30年:23件**）

【適応策】開花期の調整を目的とした遮光・遮熱資材の活用、ヒートポンプの活用、耐暑性品種等への転換の取組があった。



耐暑性の高い品種

畜産

【影響】乳用牛では、斃死、乳量・乳成分の低下等の報告があった。（斃死H28年:14件→H29年15件→**H30年:17件**）

（乳量・乳成分の低下H28年:15件→H29年16件→**H30年:14件**）

【適応策】乳量の確保や繁殖成績の向上等を目的とした細霧冷房の導入や牛体への直接送風等の取組があった。



畜舎の細霧装置